

川上ミネ Mine Kawakami

愛知県長久手市出身。ドイツ・ミュンヘン国立音楽大学ピアノ科、スペイン・マドリッド王立音楽大学院卒業。在学中にキューバ人ラテンジャズピアニスト、チューチョ・バルデスの演奏に衝撃を受け、キューバへ移住。音楽学校で教鞭をとりながらクラシックを超えた自由な音楽スタイルを身につける。

その後、中南米やアジア各地で演奏活動を行ない2000年に帰国。

現在は、サンティアゴ・デ・コンポステラ(スペイン)と京都に拠点を置き、演奏、作曲、音楽制作の活動をしている。2004年・2018年/キューバ国ハバナ市国立劇場及びマドリッド王立劇場にてチューチョ・バルデス氏とのピアノ共演。

2005年/愛知万博(愛・地球博)公式ピアニスト・作曲家として、マスコットキャラクター「モリゾーとキッコロ」の音楽を制作。

2013年～2014年/スペイン・マドリッド王立劇場で開催された「日本・スペイン交流400年開幕記念音楽会・閉幕記念演奏会」の音楽監督及びソリストを務め、皇太子徳仁殿下、スペイン国王フェリペ6世殿下、レティシア王妃がご臨席。スペインの世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステラ大聖堂」でのピアノリサイタルを開催(皇太子徳仁親王殿下がご臨席)。現在、拠点の一つとしているスペインの上記サンティアゴ大聖堂では、川上ミネ作曲「アヴェマリステラ」がミサ曲として演奏されている。

2005年以降「清水寺(京都)」2015年以降「春日大社(奈良)」と、日本の世界遺産でも毎年ピアノリサイタルを開催。NHKの番組では「猫のしっぽ、カエルの手」「やまと尼寺精進日記」「やまとの季節二十四節季」を始め、アイヌの人々の食生活を紹介する「カムイの森にごはん降る降る」、全国各地のおむすびを紹介する「おむすびニッポン」で楽曲を提供。

2023年NHK「しあわせ気分のスペイン語」に楽曲提供、出演もし、好評を得て2025年も再放送中。

2025年1月サンティアゴ・デ・コンポステラ大聖堂でKAWAIクリスタルピアノを使用したパイプオルガンとの共演コンサート、2月にはバルセロナ ミロ美術館において、日本・カタルーニャ交流年オープニング事業としてクリスタルピアノコンサートを開催。

国指定重要文化財 浄興寺

浄興寺は、親鸞聖人が越後国から常陸国笠間郡稲田(現在の茨城県笠間市)に移り、草庵を開いたことに始まります。

親鸞聖人は元仁元年(1224年)に浄土真宗の経典「教行信証」(きょうぎょうしんしゅう)を完成させ、その草庵を「歓喜踊躍山浄土真宗興行寺」(かんぎゆやくさんじょうどしんしゅうこうぎょうじ)と名付け喜びを表したと言われています。浄興寺はその略称です。

越後へ移ってきたのは天正年間(1573～92年)、上杉氏の招きによるものと伝えられています。現在地へは寛文5年(1665年)の大地震後に建立されました。

本堂は間口が28メートル、正面に3間の向拝(ごはい(本殿の前方に張り出した屋根))を付けた一重、入母屋造り(いりもやづくり)で、県内の寺院建築では最大の規模であり、最古の真宗本堂です。

江戸時代前期の建築物としては先駆的な意匠・形式で構成されており、こうした特徴は、全国の真宗本堂の遺例の中でもとりわけ注目され、浄興寺が東・西本願寺(京都)と並ぶ格式高い寺であったことを示しています。

境内には上越市の文化財に指定されている、親鸞聖人の頂骨が納められている祖廟があります。

2004年5月、9年にわたる国の本堂保存修復工事の落慶を機に、生まれ変わった浄興寺の魅力を発信するため、様々なイベントが展開されるようになりました。本堂には、世界三大ピアノの一つ、ウィーンの名機ベーゼンドルファーインペリアルMod.290のコンサートピアノが常設され、専用のステージを配置するなど、全国でも例のないコンサート会場として、アーティストからは通称「ピアノ寺」とも呼ばれる人気のエンターテインメントスポットとなっています。



浄興寺までの交通のご案内

◆電車をご利用の場合

えちごトキめき鉄道 高田駅で下車 タクシーで3分程度
徒歩7分程度
北陸新幹線 上越妙高駅下車 タクシーで10分程度

◆車をご利用の場合

上信越自動車道 上越高田ICより 10分程度
北陸自動車道 上越IC下車より 20分程度

※なお、お車で越しの方は、浄興寺西側の
寺町駐車場(市営・無料)をご利用ください。
境内内への駐車はできません。

